

真珠-海からの贈りもの

Pearls - Gift from the Sea

2020年6月2日(火)～2020年9月22日(火・祝)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展覧会の会期・開館時間・イベント等が変更・中止となることもございます。最新情報は当館HPまたはSNS等でご確認いただきますようお願いいたします。



②《帯留「桜」》御木本真珠店
1908-12年頃
ミキモト真珠島 真珠博物館

割引サービスあります！

★真珠割引き

入館日当日に真珠(パール:人造物可)を身に付けてご来館されたお客様は、通常料金から2割引きでご入館できます。なお、割引きの併用はできません。

①《パール、エナメル、サファイア&ダイヤモンドネックレス》
カルロ・ジュリアーノ 1880年頃 イギリス
穂葉アンティークジュウリー美術館

◆ 展覧会概要

世界最古の宝石のひとつである真珠。貝をあけ、そのなかから取り出される真珠は、カットや研磨など人間の手を加える前から、美しい輝きを放ち、古くから人々を魅了してきました。真珠があしらわれた宝飾品は、富や権力の象徴でもあり、王侯貴族はこぞってそれらを身につけました。

本展では、古代から近代に至るまで英国をはじめとするヨーロッパ各国で製作された真珠の装身具を展示します。これらの装身具は素材の美しさはもちろんのこと、洗練されたデザインや職人による精緻な細工が施されたもので、真珠の宝飾文化のすばらしさを伝えています。

その他、本展では日本における真珠の歴史についても取り上げます。1893(明治26)年に御木本幸吉(1858-1954)が世界で初めて真珠の養殖に成功した後、今日に至るまで日本における真珠の養殖は発展し続けてきました。明治以前の日本では真珠が装身具として用いられることがほとんどありませんでしたが、養殖真珠産業が興った後には、高度な金属細工技法による美しい装身具が製作されるようになりました。

みきもとこうきち

まさに「海からの贈りもの」である真珠。本展ではその魅力を多面的にご紹介します。

◇ 展覧会構成

序章 古代の真珠装身具

真珠は、人類が最初に出会った宝石のひとつであり、古代よりその美しい光沢が人々を魅了してきました。真珠や真珠貝に初めてその価値を見出したのは古代の中東で、その痕跡はシュメール、アッシリア、ササン朝などの遺跡から発掘されています。世界最古の百科事典「プリニウスの博物誌」の中でも、全く同じ真珠が二つとないことから「無二の宝石」と呼ばれ、最も高い地位に置かれていました。



③《真珠付き金製首飾り》
1-3世紀 シリア 古代オリエント博物館

1章 ルネサンスからロココへ

ヨーロッパでは、東方の貿易ルートが確立されたことや、コロンブスのアメリカ大陸発見で真珠が発見されたことから、かつてないほどの量の真珠が入手できるようになり、装身具としての黄金期を迎えました。真珠は、富と権力の象徴として、また純潔のシンボルとして政治的手段に用いられるようになりました。ロココ時代には、優美な曲線を用いたリボン型や、自然主義的要素を取り入れた繊細な作品が作られるようになりました。



④《パール＆ホワイトエナメルペンダント「ライオン」》
1600年頃 スペインか

ミキモト真珠島 真珠博物館

2章 ジュエリーが花開いた19世紀の真珠

この時代のジュエリーの特徴を一言で言うならば、構成する素材、技法、デザインの多様性にあります。多種多様なジュエリーを彩る真珠の世界にも、シードパールといわれる微細な真珠と、ハーフパールといわれる半球状の真珠が登場し、真円真珠とは趣の異なる表情が、ジュエリーに新たな魅力をもたらし人気となりました。しかし、どちらも20世紀初頭には用いられなくなり、ジョージアン＆ヴィクトリアンジュエリーならではの真珠として珍重されています。



⑤《パール、サファイア＆ゴールドトレンブランブローチ「鳩」》19世紀中期 フランス

穂葉アンティークジュウリー美術館

右:⑥《シードパールネックレス&イヤリングセット》19世紀初期 イギリス
穂葉アンティークジュウリー美術館

下:⑦《シードパールティアラ》
19世紀初期 イギリス
穂葉アンティークジュウリー美術館



3章 19世紀末から20世紀初頭-ひろがる真珠装飾の世界

1880年代、中世の手仕事の復活を目指した芸術運動であるアーツ・アンド・クラフツがイギリスで起こりました。一人の職人がデザインから制作までを行うというもので、素材の価値よりデザインや細工の良さが重要視されました。この流れはアール・ヌーヴオーへと続きます。また、真珠は、美しい形状の真円やドロップ型が好まれ、長めのネックレスを複数身に着けることが、豊かさの象徴となり人気となりました。



⑧《パール＆ゴールドペンダントネックレス》ウォルファース商会
1900年頃 ベルギー ミキモト真珠島 真珠博物館

4章 代表的な真珠貝と天然真珠

宝飾品としての真珠をつくる貝が真珠貝で、貝殻内面に美しい光沢を持ちます。日本ではアコヤ貝、クロチョウ貝、マベ、淡水のイケチョウ貝が養殖されています。アコヤ貝は愛媛、長崎、三重、熊本などの各県海域、クロチョウ貝は沖縄、マベは鹿児島、イケチョウ貝は滋賀の琵琶湖と茨城の霞ヶ浦に養殖場があります。シロチョウ貝はフィリピン、オーストラリア、インドネシアで、クロチョウ貝の養殖場はフレンチ・ポリネシアを中心に養殖が展開され、中国ではヒレイケチョウ貝による淡水真珠養殖が盛んに行われています。本章では、代表的な貝と真珠をご紹介します。

5章 日本のいにしえの真珠

真珠装身具が花開く明治時代以前の日本の天然真珠の例を紹介します。日本最古の真珠遺物の「縄文真珠(別名:トリハマ・パール)」は、福井県三方上中郡若狭町にある鳥浜貝塚の5500年前の縄文時代前期の地層から出土しました。また、江戸時代の長崎の大村藩で採取された大粒真珠「夜光の名珠」などの希少な遺例をご紹介します。



⑨《縄文真珠(別名トリハマ・パール)》鳥浜貝塚出土
縄文時代前期
福井県立若狭歴史博物館

6章 真珠王 御木本幸吉—日本の真珠装身具の黎明

1905(明治38)年に御木本幸吉(1858—1954)が真円真珠の養殖に成功し、その後、装身具の素材として養殖真珠が大量に供給されることで、日本で真珠装身具の文化が開花することになります。

右:⑩《髪飾り「牡丹」》御木本真珠店か
1925年頃 ミキモト真珠島 真珠博物館

下:⑪《帯留「花車」》御木本真珠店
1935年 ミキモト真珠島 真珠博物館



7章 人の手から生まれた真珠たち—養殖真珠

真珠養殖は貝の育成から始まり、貝が母貝に相応しい十分な大きさに成長したのち、核と真珠質を分泌する外套膜の切片を貝の体内に移植します。母貝からはやがて光り輝く真珠が誕生します。養殖のための道具と美しい養殖真円真珠をご紹介します。



◇ 会期中イベント

◆ 記念講演会「御木本幸吉と初期の装身具デザイン」

***開催日変更 5月30日(土) → 7月23日(木・祝)**午後2時～(約1時間30分) 地下2階ホール

講師:松月清郎氏(本展監修者、ミキモト真珠島 真珠博物館館長)

*無料(要入館料)*事前申込みが必要です。「真珠展講演会」係まで。*定員40名(先着順)

◆ ミュージアムコンサート「真珠の輝きによせて」

アイリッシュハープから奏でられる美しい音色を堪能した後は、楽器に実際に触れていただくことも可能です。

***開催延期 6月21日(日) → 9月6日(日)**午後2時～(約1時間) 地下2階ホール

出演:永山友美子(アイリッシュハープ奏者)

*無料(要入館料)*事前申込みが必要です。「ミュージアムコンサート」係まで。*定員40名(先着順)

◆ 夜のスペシャル・ギャラリートーク

***開催延期 6月27日(土) → 9月5日(土)**午後6時30分～(約1時間)

講師:穂葉昭江氏(本展監修者、穂葉アンティークジュウリー美術館館長)

*無料(要入館料)*事前申込みが必要です。「夜のスペシャル・ギャラリートーク」係まで。*定員25名(先着順)

◆ 「はじめての真珠講座」

真珠はどのようにしてつくられるの? 質が良く、美しい真珠とは? 真珠にまつわる様々な疑問におこたえます!

***開催延期 6月28日(日) → 8月29日(土)**①午前11時～ ②午後2時～(各回約1時間)

講師:藤井寛氏(株式会社 森パール、一般社団法人 日本真珠振興会 真珠検定シニアアドバイザー)

*無料(要入館料)*事前申込みが必要です。「はじめての真珠講座」係まで。*各回定員16名(先着順)

◆ 特別講座

いずれも午後2時から約1時間 地下2階ホール

*無料(要入館料)

*事前申込みが必要です。「特別講座」係まで。

*各回定員40名(先着順)

①「19世紀イギリスにおける、ルネサンスの宝飾デザインの復興」

7月11日(土) 講師:西美弥子(本展担当学芸員)

②「日本のアール・デコ—ミキモトの帯留」

7月18日(土) 講師:高波真知子(当館副館長)

◆ ワークショップ「パールビーズでアクセサリーづくり！」

パールビーズをつかって、イヤリング(またはピアス)を作りましょう!

7月5日(日)午後1時～午後4時 地下2階ホール

*無料(要入館料)*自由参加*材料がなくなり次第終了

*作業時間:約20分



事前申し込みは往復はがき、またはメール(event@shoto-museum.jp)にて

〒・住所・氏名・年齢・日中連絡のつく電話番号をご記入の上、各イベント係まで。各イベントごと1通につき1名まで申込可能。

*「はじめての真珠講座」は**参加希望時間帯**をご記入ください。*「特別講座」は**参加希望講座名**をご記入ください。

* 迷惑メール等の受信制限をされている方は、事前に@shoto-museum.jpドメインより受信できるようにしてください。

◆ 学芸員によるギャラリートーク

* **開催中止**6月13日(土)、7月3日(金)、19日(日)

◆ 館内建築ツアー

白井晟一設計の美術館建築を職員がご案内します。

会期中、7月以降の毎週金曜日(予定)

午後6時～ 約30分間

* 無料(要入館料) * 各回定員20名 * 事前予約不要

◇ 開催概要

展覧会名	真珠—海からの贈りもの	<i>Pearls - Gift from the Sea</i>
会期	2020年6月2日(火) - 9月22日(火・祝)	
開館時間	午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで) ※ 会期中、7月以降 の金曜は午後8時閉館(入館は午後7時30分まで) 予定	
入館料	一般1,000円(800円)、大学生800円(640円)、高校生・60歳以上500円(400円)、 小中学生100円 (80円) *()内は団体10名以上及び渋谷区民の入館料 * 土・日曜日・祝休日及び夏休み期間中は小中学生無料 * 毎週金曜日は渋谷区民無料 * 障がい者及び付添の方1名は無料	
休館日	月曜日(ただし、8/10・9/21は開館)、8/11(火)	
主催	渋谷区立松濤美術館	
特別協力	穂葉アンティークジュエリー美術館、ミキモト真珠島 真珠博物館	
後援	一般社団法人日本ジュエリー協会	
協力	一般社団法人日本真珠振興会	
企画協力	アートプランニングレイ	
会場	渋谷区立松濤美術館 〒150-0046 東京都渋谷区松濤2-14-14 電話: 03-3465-9421 HP: https://shoto-museum.jp	

交通案内

- 京王井の頭線 神泉駅下車徒歩5分
- JR・東京メトロ・東急電鉄 渋谷駅下車徒歩15分

※駐車場はございません

◇ 次回展のご案内

2020年10月3日(土)～11月23日(月・祝)

後藤克芳 ニューヨークだより “一瞬一瞬をアートする”



報道関係のお問い合わせ

広報担当: 西・木原(pr-sma@shoto-museum.jp) 展覧会担当: 西(nishi@shoto-museum.jp)
平塚(hiratsuka@shoto-museum.jp)

電話: 03-3465-9421 FAX: 03-3460-6366

- * 画像をご希望の場合は、作品名の前にある番号をお知らせください。 * 画像のご利用後、データは破棄してください。
- * 画像の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとしてください。 * 基本情報確認のため、一度校正をお送りください。
- * 掲載後、見本誌をご送付いたしますようお願いいたします。